

製品名: GSC2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab11810

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	GSC2
別名	GSC2; GSCL; Homeobox protein goosecoid-2; GSC-2; Homeobox protein goosecoid-like; GSC-L
遺伝子 ID	2928.0
SwissProt ID	O15499
免疫原	抗血清はヒト GSC2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

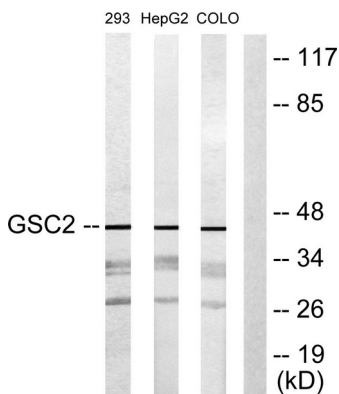
背景

ホメオドメイン遺伝子である Goosecoidlike (GSCL)は、22q11 の VCFS/DGS の重要領域に存在する。口蓋心臓顔面症候群 (VCFS)

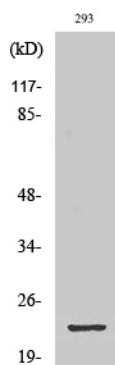
は、円錐体幹心奇形、頭蓋顔面奇形、および学習障害を特徴とする発達障害である。VCFSはディジョージ症候群（DGS）と表現型的に関連しており、両症候群とも22q11のヘミ接合性欠失を伴う。VCFS/DGSで影響を受ける組織や構造の多くは、発生中の胚の咽頭弓に由来するため、胚発生に関与する遺伝子の半機能不全が病因であると考えられている。この遺伝子は、成人の限られた組織と、ヒトの初期発生において発現している。[RefSeq提供、2008年7月]、発達段階：ヒトの初期発達段階および一部の成人組織で発現する。疾患：構造的・機能的口蓋異常、円錐体幹心奇形、免疫不全、低カルシウム血症、および典型的な顔面異常を特徴とする発達障害である口蓋心臓顔面/ディジョージ症候群（VCFS/DGS）の病因に関与している可能性がある。ほとんどの症例は、染色体22q11.2（ディジョージ症候群染色体領域、DGCR）の欠失に起因する。機能：発達に関与している可能性がある。自身の転写を制御する可能性がある。ピコイドコンセンサス配列TAATCCに結合する可能性がある。類似性：ペアードホメオボックスファミリーに属する。Bicoid亜科。類似性：ホメオボックスDNA結合ドメインを1つ含む。組織特異性：成体精巣および下垂体、ならびに9~10週胎児組織（胸部）で検出される。他の組織でも低レベルで発現している可能性がある。

研究分野

画像データ



GSC2抗体を用いた293細胞、HepG2細胞、およびCOLO205細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000に希釈したGSC2ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。